

令和 2 年 4 月 1 6 日に文教福祉委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

調査事項

2020 そうじゃ吉備路マラソンの決算状況について

～内容～

中止となった 2020 そうじゃ吉備路マラソンの決算について調査するもの。

～質疑～

問：中止の決断が早ければ、支出を抑えることができたのか。いつであればいいか、基準日のようなものはあるのか。

答：パンフレットや申込用紙などは 8 月や 9 月ごろに発注しているので、8 月に中止と決まればほとんど支出はない。10 月や 11 月ごろになると業者との契約が出てくる。今後はキャンセルのスケジュールについて、今回を教訓に業者や各団体と検討していきたい。

問：コーススポンサーのスポンサー料は返金したのか。

答：返金はしていない。大会冊子を参加者に送付すること等で理解してもらっている。

問：参加予定であったランナーに収入と支出の報告はどうするのか。翌年度への繰越金の約 850 万円について、使い道の説明が必要と考えるがどうか。

答：報告は早い時期にする必要があると考えている。実行委員会で協議し報告したい。繰越金の使い道については、参加者等へどう還元していくのかがいいか検討している。コースの整備に使う方法もあり、いろいろな意見を聞きながら実行委員会で決定したい。

総社市の新型コロナウイルス感染症に対応した医療継続モデルについて

～内容～

市内の医療崩壊を防ぎ、重症者、重症になるリスクの高い患者を高次医療機関につなぎ、高齢者や基礎疾患のある人を感染から守るための体制について調査するもの。

～質疑～

問：マスクをしていない職員がいたり、窓口に何も対策をしていなかったり、市役所の対応は遅いのではないか。

答：昨日、職員にはマスクをするよう指示を出したところである。若干遅かったと思う。窓口等の対策は今後検討していく。

問：医療継続モデルとして、吉備医師会と市で医師と看護師等が対応する電話

相談を設けるとのことだが、どのように運営するのか。

答：備中保健所がパンクし、保健所での受け入れが困難になった場合などに運営を考えている。いざという時に速やかに電話相談が行えることが重要であると考えている。現在は備中保健所が機能しているので電話相談を始める必要はないが、今後備えて早め早めの準備はしていく。

問：専門外来の準備はどこまでできているのか。全て段取りができている状態なのか。

答：これまで1箇月かけて吉備医師会と、どのような仕組みが必要か協議してきた。大枠で合意ができたところだ。いつでもすぐに始められるように準備を速やかに進めていく。

総社デニムマスクの取組について

～内容～

総社デニムマスクの販売目的やマスクを作成している事業所の状況について調査するもの。

～質疑～

問：デニムマスクの1日の生産量はどの程度か。

答：今生産体制を整えているところで、体制が整えば1日、2,000から3,000枚の生産量となる。

問：今回の取組は、障がい者の方にとって本当に自立支援につながっているのか。また、デニムマスクの商標登録をすることが必要ではないか。

答：障がい者の方は一生懸命取り組んでいてやりがいを持っている。障がい者の方が、本当に働くという喜びを持って、自分が作った物が売れるという喜びを持って生活ができるように支援していきたい。また、社会福祉協議会とも連携をとり、未長く続く事業になるよう支援をしていきたい。総社デニムマスクを全国に販売して行く上で、ブランド化は必要であるので商標登録の申請をする。

学校園の現状と今後について

～内容～

臨時休業中の小中学校や幼稚園等の運営状況について調査するもの。

～質疑～

問：どのくらいの子どもが緊急受入児童クラブに来ているのか。

答：1日300名程度来ており、多いときで330から340名である。登校日がある日は人数は少なくなっている。

問：マスクの着用の状況はどうか。

答：マスクを持っていない児童については、学校から配布し、着用させている。長時間の中で着用の意識が薄れるタイミングがあるかと思うが、子ども達の意識と先生の意識を変え、マスクの着用の徹底を図っていく。

報告事項

保育所の入所状況と今後の見通しについて

～内容～

保育所等の入所状況と今後の見通し（保育士の確保策、保育士の処遇改善、幼稚園の預かり保育の活用）等について報告を受けた。

～質疑～

問：保育士の処遇改善では年間2万円の手当を維持するとのことだが、上げることはしないのか。また、ワークシェアリング等の働き方改革を行い、保育士の負担軽減も必要ではないか。

答：倉敷市が年間7万円、岡山市が年間10万円程度の手当の処遇改善を行っている。本市としても新たな施策を講じる必要があると考えている。保育士の働き方については、勤務時間を細かく分けたりし負担軽減を図っているが、保育士の、お金より休みがほしい、との声を聞いている。現場の声をしっかり吸い上げて、総社に残ってもらえるように努力していきたい。

問：小規模の幼稚園を今後どうしていくのか。認定こども園を増やしていく考えはないか。

答：今後の在り方について検討を始めていかなければならない。認定こども園化についても同時に考えていく。